

パイロット養成へ 返済不要の奨学金

RAC、崇城大と提携

訓練、生活費2年間200万円



ACの伊礼恭^{たかひ}社長は「崇城大は、国内訓練だけで資格を取得できる貴重な養成機関。地域を支える人材を

確保したい」と述べた。パイロット養成の奨学金では、私大などの学生に最大500万円貸与または給付する「航空機操縦士育英会」などがある。

(増知里)

離島便を運航する琉球エアロコミュニティー(RAC、那覇市)は9日、パイロット養成課程がある崇城大(熊本市)と提携し、2年間の訓練、生活費に相当する約2千万円の奨学金を設けると発表した。写真。一定期間の勤務を条件に返済を全額免除するとしており、同様の奨学金の導入は全国初とみられる。

高度な技術習得が必要なパイロットは候補となる人材に限られる一方、格安航空会社(LCC)の事業拡大などによる世界的な航空需要の高まりを受け、争奪戦の様相となっている。

RACは沖縄、鹿児島両県で12路線1日約40便を運航。パイロットは現在42人いるが、自社養成は負担が重いため、大学と連携して手厚い支援策を用意し、離島便の維持を図る。

奨学金は沖縄県の大学4年生2〜3人が対象。卒業を控えた来年2月から訓練

を始める。来年以降、沖縄県外からの募集も検討する。

熊本市で記者会見したR

熊本市で記者会見したR